

# Rsyncスケジュールバックアップモジュール使用方法

Rsyncスケジュールバックアップモジュールを使って、本製品から別のNAS/サーバーへ共有フォルダーをバックアップできます。

## 対象製品

N-RAID 5500Kシリーズ/Thecus NAS(ヤノモデル)(ファームウェアのバージョン:v5.xx.xx)

## オリジナル版との違い

- ・タスク数の制限を5個から20個に拡張しました。
- ・ACL(アクセス権)情報をバックアップできるようになりました。
  - ※ その際、「.AppleDB」ファイルはバックアップされません。
  - ※ N-RAID 4000T/4000ZシリーズにはACL情報をバックアップできません。
- ・タスクごとにチェックサムの有無を設定できるようになりました。
  - ※チェックサムを行わない場合、大量のフォルダー/ファイルの同期/差分にかかる時間が大幅に短縮されます。
- ・メール通知においてログレベルを指定しているにも関わらず、全てのレベルのログが送信されてしまう問題を修正しました。
- ・ログ保存機能をON/OFFできるよう修正しました。
- ・万が一動作に問題が発生した際、60分以内に解決されない場合はタイムアウトするように修正しました。

## インストールするモジュールと製品の組み合わせについて

モジュールをインストールする製品のファームウェアや、バックアップ側の製品によってモジュールが異なります。以下をご確認のうえ、適切なモジュールをインストールしてください。

バックアップ元NAS (ファームウェア)	バックアップ先NAS (ファームウェア)	バックアップ元にインストールするモジュールのバージョン
N-RAID 5500Kシリーズ Thecus NAS(ヤノモデル)(v5.xx.xx)	➡➡ N-RAID 5800Mシリーズ N-RAID 5500Kシリーズ Thecus NAS(ヤノモデル)	v2.0.0Ya+c2
N-RAID 5500Kシリーズ Thecus NAS(ヤノモデル)(v5.xx.xx)	➡➡ N-RAID 4000Tシリーズ (1.0U) N-RAID 4000Zシリーズ (2.0V)	v2.0.0Y+c2

※上記以外の組み合わせについては、サポートいたしかねます。

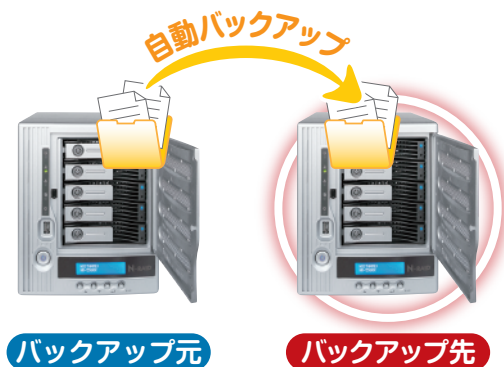
## バックアップ先の外部NAS/サーバーの準備

- ・バックアップ先の外部NAS/サーバーの空き容量は、バックアップするデータより大きい必要があります。
- ・バックアップ先の外部NAS/サーバーは、Rsyncターゲットの機能を搭載している必要があります。
- ・バックアップ先へACLを反映するためには、バックアップ元と同じユーザーグループ情報(ユーザーID含む)を事前に登録してください。
- ・ACL情報をバックアップしない場合、バックアップ先フォルダー内部のACL情報はバックアップ先の共有フォルダーに準じます。
- ・N-RAID 4000T/4000Zシリーズにバックアップする場合、バックアップ先フォルダーのACL情報は自動的にEveryoneがRO(リードオンリー)に設定されます。ACL情報を変更する場合は別途N-RAIDの管理画面>ユーザ設定>アクセス権(詳細)で変更してください。

## バックアップ先NAS／サーバーの設定

Rsyncスケジュールバックアップの設定は、「バックアップ元NAS」「バックアップ先NAS／サーバー」それぞれに行います。

まずは「バックアップ先NAS／サーバー」から設定します。

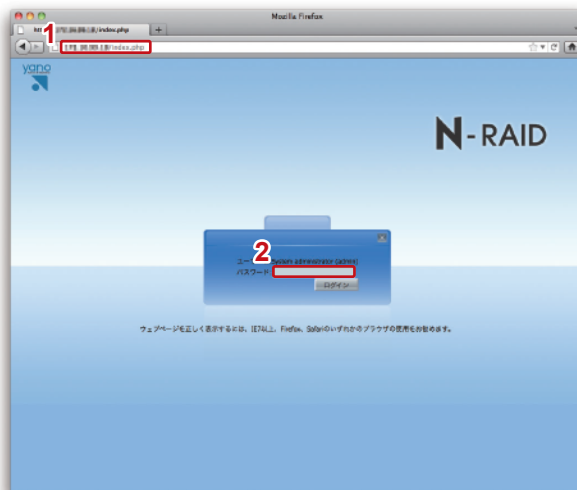


### バックアップ先のNASの設定

#### ログイン

1. WebブラウザでNASのIPアドレスをアドレスバーに入力します。
2. パスワードを入力してadmin画面にログインします。

※画面はN-RAID 5500Kシリーズのもので。



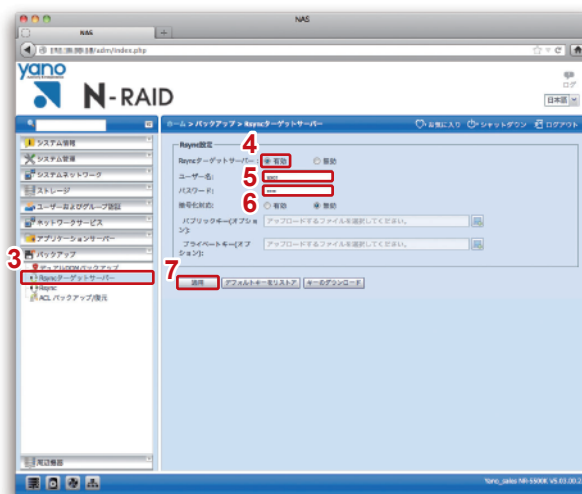
### 《N-RAID 5500K・5800Mシリーズ／Thecus NAS(ヤノモデル)[ファームウェアVer.5.xx.xx] の場合》

#### ホーム

3. 「バックアップ」から「Rsyncターゲットサーバー」をクリックします。

#### ホーム>バックアップ>Rsync ターゲットサーバー

4. 【Rsync設定】項目にある「Rsyncターゲットサーバー」の有効を選択します。
5. バックアップ専用の「ユーザー名」を入力します。
6. バックアップ専用の「パスワード」を入力します。  
※ お客様がログインするためのユーザー名/パスワードと違って構いません。  
※ ユーザー名/パスワードは半角英数で入力してください。
7. 「適用」ボタンをクリックします。



## 《Thecus NAS(ヤノモデル)[ファームウェアVer.3.05.02.4]の場合》

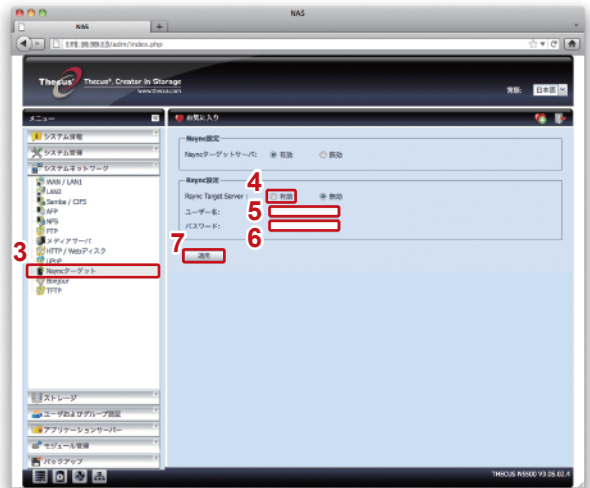
### ホーム

3. 「システムネットワーク」から「Nsyncターゲット」をクリックします。



### ホーム>バックアップ>Rsync ターゲットサーバー

4. 【Rsync設定】項目にある「Rsync Target Server」の有効を選択します。
5. バックアップ専用の「ユーザー名」を入力します。
6. バックアップ専用の「パスワード」を入力します。  
※ お客様がログインするためのユーザー名/パスワードと違っていても構いません。  
※ ユーザー名/パスワードは半角英数で入力してください。
7. 「適用」ボタンをクリックします。



## 《N-RAID4000T/4000Zシリーズの場合》

### ログイン

1. WebブラウザでNASのIPアドレスをアドレスバーに入力します。
2. ユーザー名とパスワードを入力してYFS Controller Proにログインします。  
※ ユーザー名/パスワードは半角英数で入力してください。  
※ ユーザー名が「nasroot」、パスワードの初期値が「00000000」です。



### メニュー

3. 「ストレージ設定」(4000Zシリーズは「共有設定」)から「バックアップ設定」をクリックします。



### メニュー>ストレージ設定>バックアップ設定

4. 【バックアップ設定】項目にある「サーバ」を選択します。
5. ステータスを「設定する」を選択します。
6. 「更新」ボタンをクリックします。  
※ バックアップの「ユーザー名」「パスワード」は、YFS Controllerのユーザー名とパスワードと同じです。

※画面はN-RAID 4000Tシリーズのもので。



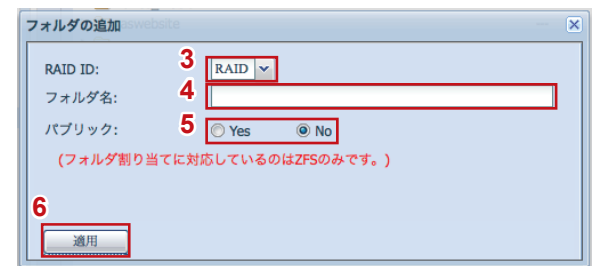
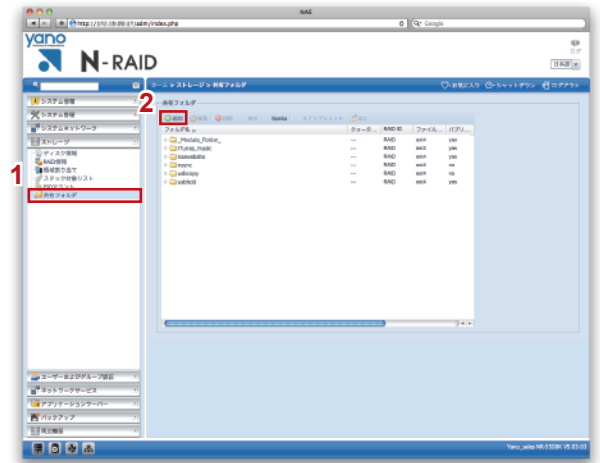
## バックアップ先のNASに共有フォルダを作成する

ホーム>ストレージ>共有フォルダ

1. バックアップ先となる共有フォルダ(/サブフォルダ)を必要に応じて新規作成します。「ストレージ」から「共有フォルダ」をクリックします。
2. 「追加」をクリックします。

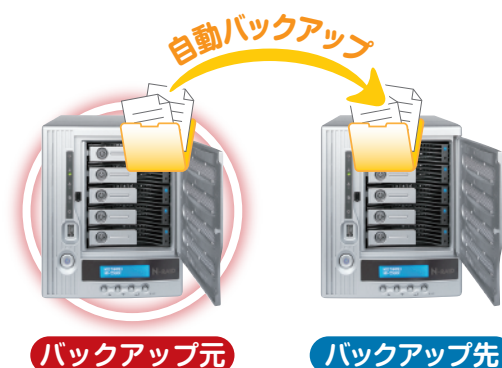
### フォルダの追加

3. 複数のRAIDボリュームを作成している場合は、バックアップ先となるRAID IDを選択します。
4. バックアップ先となる共有フォルダの名前を入力します。  
※ 大小文字、全半角に注意してください。
5. パブリックを選択します。  
※ 同じ名前の共有フォルダへバックアップする場合は、バックアップ元のNASに揃えておくと便利です。
6. 「適用」ボタンをクリックします。



## バックアップ元NASの設定

「バックアップ先NAS/サーバー」の設定が終わったら、  
「バックアップ元」の設定を行います。



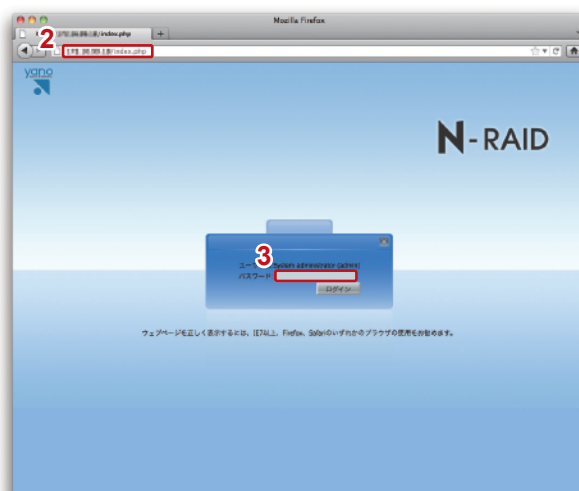
### Rsyncスケジュールバックアップモジュールのインストールと有効化

1. 製品に添付のCDにRsyncスケジュールバックアップモジュール「Rsync\_Backup\_(モジュールのバージョン)+c2.app」が入っている事を確認します。  
モジュールが入っていない場合は、弊社Webサイトよりダウンロードしてください。

バックアップ元のNASがN-RAID 5500Kシリーズ/Thecus NAS(ヤノモデル/ファームウェアのバージョン:v5.xx.xx)の場合:  
[http://www.yano-sl.co.jp/download/soft/nas\\_rsync\\_schedule\\_backup\\_200y.html](http://www.yano-sl.co.jp/download/soft/nas_rsync_schedule_backup_200y.html)

- ※「Rsync\_Backup\_(モジュールのバージョン)+c2.app」は「Rsync\_Backup」フォルダーに入っています。
- ※インストールするモジュールのバージョンはバックアップ元のNASとバックアップ先のNASの組み合わせにより異なります。P.1の「インストールするモジュールと製品の組み合わせについて」をご確認ください。

※画面はN-RAID 5500Kシリーズのものであります。



#### ログイン

2. WebブラウザでNASのIPアドレスをアドレスバーに入力します。
3. パスワードを入力してadmin画面にログインします。

## 《N-RAID 5500Kシリーズ／Thecus NAS(ヤノモデル)[ファームウェアVer.5.xx.xx]の場合》

### ホーム

- 「アプリケーションサーバー」から「モジュール(のインストール)」をクリックします。



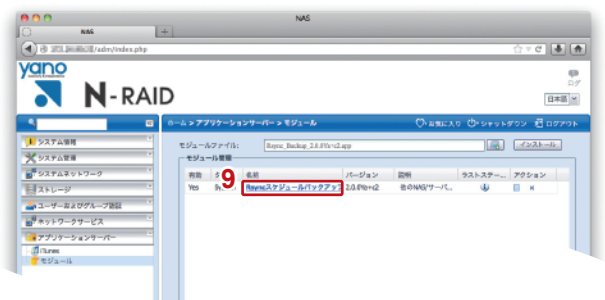
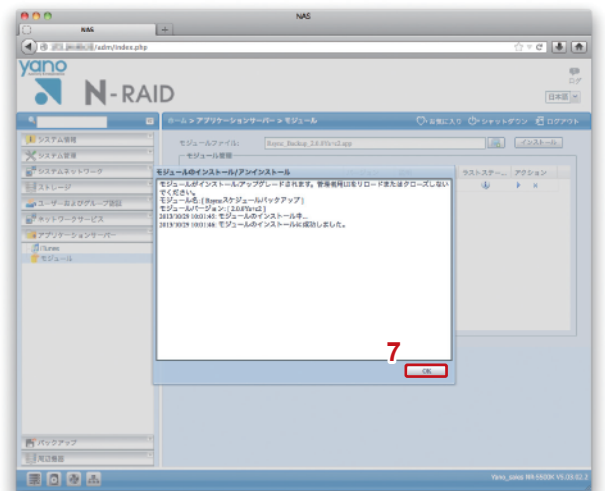
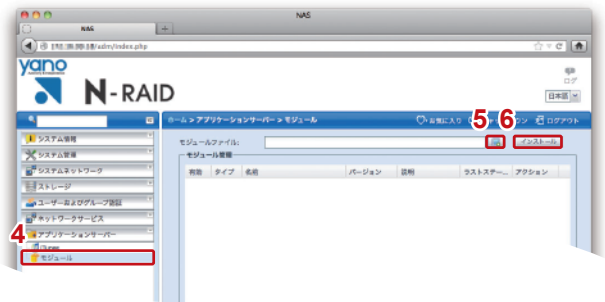
### ホーム>アプリケーションサーバー>モジュール(のインストール)

- ボタンをクリックし、モジュールファイル (Rsync\_Backup\_2.0.0Ya+c2.appまたは Rsync\_Backup\_2.0.0Y+c2.app)を選択します。

※既に旧バージョンのモジュールをご使用の場合、新バージョンに上書きされます。その際、既存のタスク情報は保持されます。(「ログを保存する」にチェックが入っています。必要に応じて編集してください。)
- 「インストール」ボタンをクリックします。  
確認メッセージが表示されるので、「Yes」をクリックします。
- インストールが開始されます。  
確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。
- 右側の【モジュール管理】の中に表示されている「Rsyncスケジュールバックアップモジュール」のアクションボタン「▶」をクリックします。  
確認メッセージが表示されるので、「Yes」をクリックします。  
※右側に何も表示されない場合、モジュールを弊社Webサイトからダウンロードとインストール(前頁参照)をする必要があります。  
※ダウンロード方法の詳細は弊社カスタマーサポートまでご連絡ください。
- モジュールが有効になります。  
「Rsyncスケジュールバックアップモジュール」をクリックします。



- バックアップタスクの作成や編集を行う為の新しいウィンドウが開きます。





# バックアップの作成／実行／編集／削除

※デグレード状態、リビルド中はタスクを作成・編集・削除できません。

## ■タスクを作成し、バックアップを実行する

※画面はN-RAID 5500Kシリーズのものです。

### 新規ウインドウ

1. 「追加」をクリックします。

2. 以下の内容をそれぞれの項目に入力します。

タスク名	バックアップ管理用の名称を入力します。
バックアップ方法	完全一致バックアップの場合は【同期】、増分バックアップの場合は【差分】を選択します。
バックアップ元の共有フォルダー	バックアップ元の共有フォルダーを選択します。全ての共有フォルダーを選択する場合は「すべて選択」にチェックをつけてください。
IPアドレス(ホスト名):ポート	バックアップ先のNAS/サーバーのIPアドレスを入力(ポートの数値を変更する必要はありません)。
バックアップ先/サブフォルダー	バックアップ先の共有フォルダーを選択します。(サブフォルダーを指定しない場合は空白でも可)。

※同じ名前の共有フォルダへバックアップする

- バックアップ先NASに全く同じ名前、パブリック設定の共有フォルダを作成しておく必要があります。
- 「バックアップ先/サブフォルダー」へ入力する必要はありません。
- 複数の共有フォルダを選択すると、全て同じ名前の共有フォルダへそれぞれバックアップされます。

※違う名前の共有フォルダへバックアップする

- 「バックアップ先」へバックアップ先NASの共有フォルダ名を必ず入力してください。
- 複数の共有フォルダを選択すると、宛先共有フォルダ(/サブフォルダー)の直下にまとめてバックアップされます。複数の宛先へバックアップする場合は、別タスクを作成してください。

※バックアップ先の共有フォルダー(サブフォルダー含む)のパブリックが「No」で、ACLを一度も設定したことがない場合は必ず下記の操作を行ってください。N-RAID 5800Mシリーズの場合は必要ありません。

#### ホーム>ストレージ>共有フォルダ

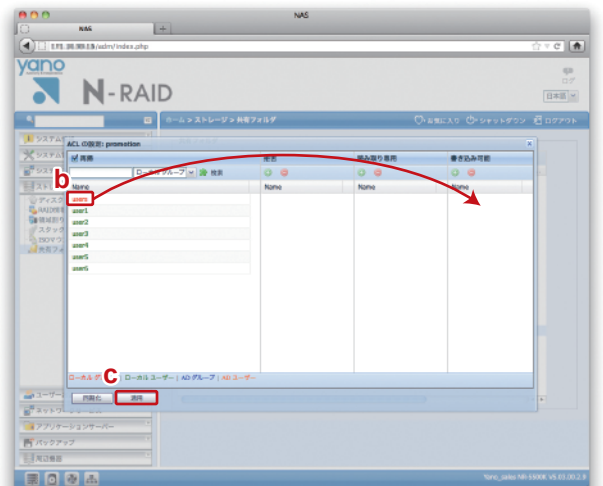
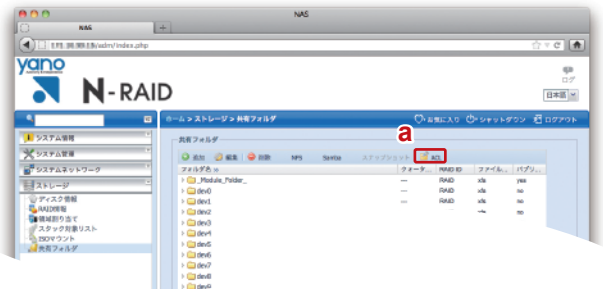
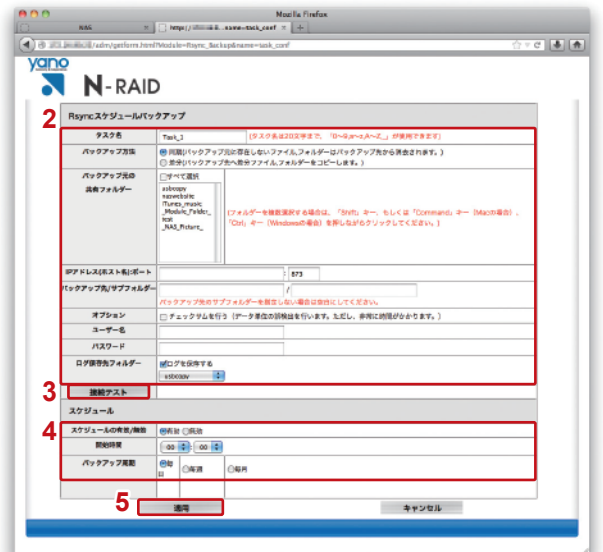
- 該当する共有フォルダーを選択し「ACL」をクリックします。
- 「Name」一覧から「users」を「書き込み可能」欄にドラッグ&ドロップします。
- 「適用」ボタンをクリックします。

オプション	データ単位の誤検出を行う場合は「チェックサムを行う」にチェックをつけてください。ただし、非常に時間がかかります。
ユーザー名	バックアップ側のRsync設定で入力したユーザー名を入力します。
パスワード	バックアップ側のRsync設定で入力したパスワードを入力します。
ログ保存先フォルダー	バックアップのログを保存する場合は「ログを保存する」にチェックをつけ、ログを保存する共有フォルダーを選択します。

3. 「接続テスト」をクリックします。

『(IPアドレス)への接続テストに成功しました』と表示されたら、問題なく接続されています。

※バックアップ先のサブフォルダーの有無はテスト結果と関係ありません。



4. 自動設定を行う際は以下の項目を入力します。

スケジュールの有効/無効	「有効」を選択します。
開始時間	開始時刻を設定します。(24時間表示)
バックアップ周期	バックアップ間隔を【毎日】と【毎週】と【毎月】から選択します。

5. すべての項目を入力後、「適用」をクリックします。  
確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。

6. トップ画面にタスクが追加されました。  
手動で実行する場合は、アクションボタン「▶」をクリックするとバックアップが実行されます。バックアップを途中で停止する場合は「□」をクリックしてください。バックアップの進捗状況および結果については「最終ステータス」で確認できます。

※お使いの環境やバックアップ元のファイル数によって、タスクの開始・停止ボタンを押しても反応が遅い場合があります。続けて押すと二重処理扱いになり、エラーや処理速度の低下につながりますので、反応が無い場合はしばらく様子を見てから再度お試しください。

※バックアップ中は、NASの電源をOFFにしないでください。また、NASからネットワークケーブルを取り外さないでください。

※4.でスケジュールを設定している場合は自動的にバックアップが開始されますので、手動で実行する必要はありません。

※タスクを複数作成して同時に実行できますが、バックアップ時間が増えると共に全体のパフォーマンスが低下します。  
できる限り作業時間をずらしてそれぞれのタスクを実行してください。



## ■タスクを編集する

### 新規ウインドウ

1. 編集するタスクのチェックボックスにチェックをします。
2. 「編集」をクリックします。



3. タスクの詳細画面が表示されるので、内容を変更して「適用」をクリックします。  
確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。

※「タスク名」は編集できません。

4. タスクの変更内容が反映されます。



## ■タスクを削除する

### 新規ウインドウ

1. 削除するタスクのチェックボックスにチェックをします。
2. 「削除」をクリックします。



3. 確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。
4. タスクが削除されます。





## バックアップしたデータを確認する

バックアップ完了後、バックアップ元と同様に、バックアップ先のNAS/サーバーのバックアップ先共有フォルダーをマウントして、内容に問題がないか確認します。

バックアップ先のNASの共有フォルダーがパブリック「Yes」になっている場合は、下記のとおりアクセスしてください。

<バックアップ元のNASの共有フォルダーがパブリック「Yes」になっている場合>

ゲストおよび全てのユーザーがアクセスできます。

<バックアップ元のNASの共有フォルダーがパブリック「No」になっている場合>

ゲスト以外のユーザーはバックアップ元のNASのACL情報が反映されています。

バックアップ先の共有フォルダーにアクセスできない場合は以下の内容を確認してください。

- ・ ログインするユーザー名/パスワードが正しいかどうか。
- ・ パスワードを再設定しているかどうか。  
(バックアップ元からバックアップ先へユーザー/グループを移行する際、パスワードは移行されないため)
- ・ バックアップを行う前にバックアップ先の共有フォルダーのACLを設定しているかどうか。  
(本紙P.7「バックアップ先/サブフォルダー」参照)

問題がある場合は、バックアップログを確認して、問題の内容を確認してください。

※バックアップログの内容で不明点がある場合は、弊社カスタマーサポートにお問い合わせください。

## 注意事項

- ・ 本モジュールとレプリケーションモジュール(常時監視/バックアップ)やUSB/eSATAスケジュールバックアップモジュールを同時に使用した場合、双方のモジュールの動作に負荷がかかり、速度低下やタイムアウトエラーなどが発生する可能性があります。用途に応じての使い分けを推奨します。
- ・ 複数のタスクスケジュールを実行する場合、タスクごとに時間帯をずらして実行すると本体の負荷が分散されます。
- ・ バックアップ実行中は本体に負荷がかかっているため、クライアントからのアクセス速度が低下します。業務外時間(深夜~早朝等)に実行すると、スムーズに運用できます。
- ・ バックアップ方法を「同期」にして実行した場合、不要データを消去する時間が60分を超えるとタイムアウトエラーで終了します。(タイムアウトの際は、最新ステータス欄に「ターゲットデバイスが存在しません。」と表示されます)
- ・ バックアップ元となる共有フォルダー内のデータをリネーム(名前変更)した場合、バックアップ実行時に、バックアップ先のリネーム前のデータが一旦削除されてから新規にリネーム後のデータが作成されます。そのため、処理に非常に多くの時間がかかりますのでご注意ください。
- ・ リストア実行時、リストア先に重複データが存在した場合においても、全てのファイルのACLが上書きされます。ACLのリストア時間が短縮されることはありませんので、ご注意ください。
- ・ 「接続テスト」でエラーが発生する場合は、以下をお試しく下さい。
  - ・ 同名の共有フォルダにバックアップする場合、バックアップ先NASの共有フォルダの名前を大小文字、全半角を含めて再度確認する。バックアップ元NASの共有フォルダの名前と異なる場合は修正する。
  - ・ バックアップ元NASとバックアップ先NASに、それぞれ新規共有フォルダを作成してテストする。
  - ・ バックアップ先NASのRsyncターゲットサーバーを一旦無効=>適用した後、再度有効=>適用する。
  - ・ バックアップ元NASとバックアップ先NASを、それぞれ再起動する。
  - ・ バックアップ元NASとバックアップ先NASを、それぞれ最新のファームウェアにアップデートする。